

毎日が勤労感謝の日

奈良県立青翔中学校3年

小山 愛桂

「電車の到着が1分ほど遅れております。お急ぎのところ、ご迷惑をお掛けしましたことをおわび申し上げます。」

これは、私が中学1年生の時から利用し、今年で3年目となる鉄道会社のある日のアナウンスです。通学中に聞いたこの言葉に少なからず衝撃を受けました。「たった1分なのに。」と思ったのです。よく言われることですが、日本の鉄道は非常に時間が正確です。以前、学校で交流した留学生が「日本に来て驚いたことは、電車が時刻表通りに来ることだ。」と話していました。5分は誤差の範囲内で遅延ではないという国は珍しくないようです。また、イギリスに留学されていたある先生は、「ほぼ毎日ストライキで、電車通学が難しかった。」と仰っていました。この違いの理由として、日本人は仕事に真面目で几帳面だからと言う人が多いです。しかし私は、もう1つ理由があると思うのです。

先程、私は「たった1分」と述べました。でも、電車で通勤する大人たちは1分1秒を大切に仕事をしています。その貴重な時間を無駄にさせてはならないと考えるから、鉄道会社の方々は電車が時刻表通りに運行するよう努められているのではないのでしょうか。人の立場に立って考えること、或いは気遣いが、鉄道が正確な理由の1つだと思います。

ところで、駅員さんの仕事は多岐にわたっています。電車が安全に発着するための管理をはじめ、忘れ物の管理、声かけやトラブルへの対処、さらには駅周辺の道案内まで、乗客から見える部分だけでも様々な仕事をされています。

この中の忘れ物について考えてみました。恥ずかしながら私はよく車内に傘を忘れます。最近ではイスの手すりに掛けるなどせず、常に手に持つという対策をとっていますが、少し前にはよく「あっ、傘がない！」と慌てていました。忘れ物に気付くと焦ります。届いているかどうか不安な気持ちで聞きに行きます。駅によっては改札ではなく駅務室に行きますが、初めて駅務室へ行くように言われた時は、木製のドアを叩く勇気がなかなかもてず、とても緊張した状態でノックして入りました。ところが、部屋の雰囲気の和やかなこと！笑顔でイスに掛けるよう勧めてください、「そういう傘なら、確か……。」と情報を出し合い調べてくださいました。ダイヤを確認して数多い忘れ物の中から探してくださった結果、私の傘は他府県の遠い駅で預かっていることがわかりました。すると、「最寄り駅には届けられませんが、ここへなら送れます。明日取りに来られますか。」と尋ねられたのです。「ありがとうございます。」の一言では足りないくらいありがたかったです。不安で仕方がなかった私は、皆さんの親切な対応のお蔭でほっとし、安心して翌日を待つことができました。

アナウンスの例も、忘れ物の例も、私たち乗客の心境に寄り添った臨機応変の「思いやり」です。遅延なく電車を動かすという仕事だけを日々行えばよいと考えるなら、「お急ぎのと

ころ」と気遣ったり、乗客の不注意による忘れ物を通学途中の駅で受け渡せるよう運んだりするのは義務ではありません。必須でないにも関わらず親切に対応してくださる、これは日本人の「おもてなし」の心、つまり真心込めて仕事をするということを表していると思います。その姿を見て、当然と受け取るのか、有り難いと感謝するのか。私は、駅員さんのさりげない思いやりに日々「ありがとうございます。」と思っています。

「有り難い」というのは本来、滅多にないという意味です。したがって、対義語にあたるのは「当たり前」です。親切は当たり前などではなく、貴重な心配りなのだということに気が付き、感謝すれば、社会はどこか温もりのある、安心して暮らしやすい場になるのではないのでしょうか。

電車などの交通機関もそうですが、私たちの生活に必要なシステムは勝手に動いているわけではありません。迷子のお知らせをするお店のサービスカウンター、ぬいぐるみや絵本を持ってきてくださった小児科の看護師さん。「仕事だから。」では割り切れない、相手のことを真剣に思いやる気持ちがそこにはあります。そして、それによって私たちの毎日は成り立っています。

このような有り難い思いやりに気付いた今、感謝の気持ちを忘れずに、いつかは私も、誰かに「ありがとう。」と思われるような働き方をしたいと思ってやみません。